

aneos
自然を測り、暮らしを守る

www.aneos.co.jp

CORPORATE GUIDE

会社案内



ANEOS株式会社

本社 営業本部・技術本部	〒152-0001 東京都目黒区中央町1-5-12	TEL 03-5768-8251(代) FAX 03-5768-8261
渋谷営業所	〒150-0044 東京都渋谷区円山町16-1	TEL 03-3496-1977(代) FAX 03-3496-1987
東北営業所	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-9-11	TEL 022-227-7805(代) FAX 022-264-4145
関西営業所	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東3-5-21	TEL 06-6309-8251(代) FAX 06-6309-8268
九州営業所	〒814-0012 福岡県福岡市早良区昭代1-18-8	TEL 092-833-3311(代) FAX 092-833-3310
横浜事業所	〒244-0802 横浜市戸塚区平戸3-56-21	TEL 045-823-8251(代) FAX 045-826-0919
茨城事業所	〒319-1725 茨城県北茨城市関本町富士ヶ丘石滝1096-15	TEL 0293-46-6571(代) FAX 0293-46-3322
春日部事業所	〒344-0067 埼玉県春日部市中央7-10-28	TEL 048-731-0122(代) FAX 048-731-0033

毎日見ている天気予報

気象庁のアメダスに採用

「週末の運動会は晴れるかな?」「そろそろコートを着ようかな?」誰もが毎日見ている天気予報。これは日本国内約1,300箇所の気象観測所で構成される、気象庁のアメダス(地域気象観測システム)からのデータが基礎となっています。

気象庁内の地域気象観測センター(通称アメダスセンター)ではアメダス観測所で得られたデータを10分ごとに自動で収集しています。

データは品質チェックを経たのち全国に配信され、気象災害の防止や軽減に重要な役割を果たします。

弊社の雨量計はアメダスの運用が開始された1974年以来ずっと採用されています。さらに2005年より整備された04型アメダスでは、弊社の風向風速計、通風式温度計、積雪計も採用され、日本の気象観測を支える役割を果たしてきました。

南北に長い国土を持つ日本中をカバーするアメダスでは、北の極寒、南の灼熱と幅広い環境でも365日24時間途切れることなく安定的に継続した気象観測を行うことが求められます。アメダスでの実績が弊社の気象測器の耐久性と高い品質を証明しています。

アメダス／AMeDASはAutomated Meteorological Data Acquisition Systemの略称です。



こんなところに
ANEOS

日本全国の飛行場

安全運行を気象情報
ネットワークで支えている

日本の空を、1日約3,600機の航空機が行き交っています。そうした数多くの航空機の安全な離着陸を確保するため、全国の飛行場では航空気象観測を行っています。

観測している気象要素は、風、視程、滑走路視距離、大気現象、雲、気温、露点温度、湿度、気圧、降水量、降雪または積雪の深さなどです。これらデータをリアルタイムに収集し、航空機への離着陸許可や誘導など、空港での管制を支援しています。

全国約100箇所以上の飛行場で、ANEOSの観測機器は活躍しています。弊社は、1990年の航空用風観測システムの納入から30年、日本の空の安全を見守ってきました。現在では気象庁所管の航空統合気象観測システム(略称AIMOS)を設計から製造、設置調整および保守管理まで、ワンストップでご提供しています。

ANEOSの観測機器は、全ての情報をネットワーク上で管理する必要のあるAIMOSの実現に貢献しています。



自然を測り、暮らしを守る

高品質な気象観測システムで 人と自然を守り、地球観測の未来を拓く。

——新会社ANEOS誕生——

株式会社日本エレクトリック・インスルメントと
株式会社小笠原計器製作所は合併し、ANEOS株式会社へ

ロゴに込めた想い

「人と自然のつながり」そして「人と人、企業と企業のつながり」を
大切にする思いを込めて、線でつなげたデザインとしました。
また、「自然を観測することで、人々が安心して暮らせるところへ
つなげてゆくこと」を表現しています。

ANEOS(アネオス)は、私たちの新しい社名です

A — Advance(先進)の「A」

N [] 日本エレクトリック・インスルメントの略称NEIの「NE」

O — 小笠原計器製作所の略称OKの「O」

S — Synergy(相乗効果)の「S」

地球が与えてくれる、かけがえのない贈り物「自然」。私たちANEOSグループは、「人類と自然の共存」を大切にして参りました。

社会経済の高度化により、地球規模での環境破壊が課題となっています。また、かつてない自然災害が世界規模で発生し、人々の暮らしを脅かしています。そのため、自然環境の観測、自然災害の予測が、今まで以上に重要になっています。

1886年の創業から130年にわたる豊富な実績を礎に、高度な技術力を持つ小笠原計器製作所。そして、常に時代の先端技術を取り入れた気象観測ソリューションを提供する日本エレクトリック・インスルメント。この2社が令和元年8月に合併し、新しい社名の下、ANEOS株式会社として次の時代へ一歩踏み出しました。

観測機器で自然を高精度に「はかる」。そして、観測したデータをIoTやクラウド等のICT技術を活用して処理し、気象観測ソリューションをワンストップで提供すること。

それが、私たちANEOSの使命です。

気象観測のリーディングカンパニーのその先を目指し、新たな価値創造に努めて参ります。どうぞ、ご期待ください。

代表取締役会長 野澤 侑司
代表取締役社長 野澤 裕



代表取締役会長 野澤 侑司(右)
代表取締役社長 野澤 裕(左)

企業理念

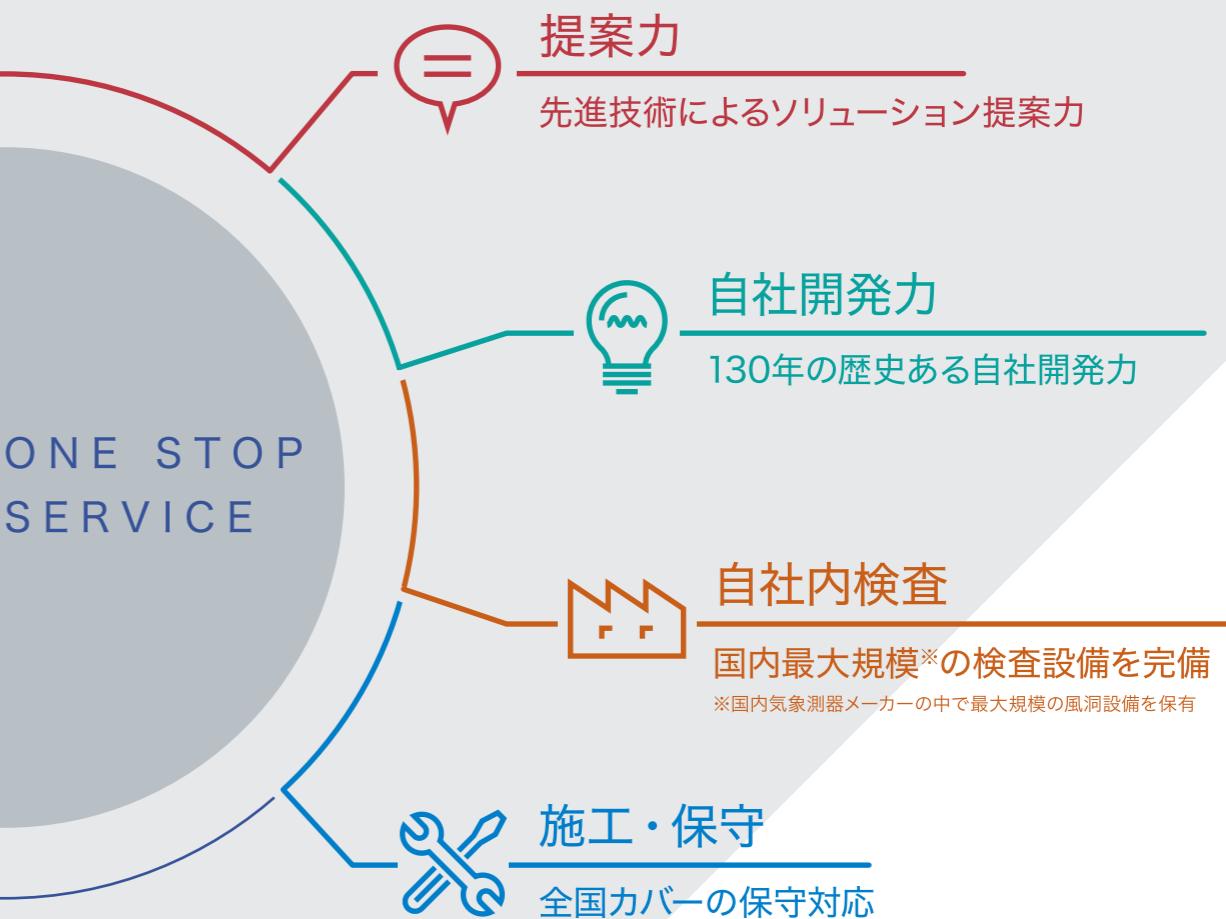
高度な品質とアフターサービスで 顧客に応える

私たちは、製品の高い性能と品質、きめ細やかなアフターサービスで、いついかなる時もお客様のご期待にお応えしてまいります。

地球が与えてくれているかけがえのない「自然」と、「人」との共存共栄のため、気象観測の新たな価値を創造します。

そして、社員一人一人がお互いを尊重し、一丸となって目標の実現に向かって邁進いたします。

高品質な気象観測ソリューションを
ワンストップでお届けします。



創業から130年にわたる小笠原計器製作所の高度な技術力と、
日本エレクトリック・インスルメントの先進的な提案力。
ANEOSは、この2つの相乗効果を強さの源泉としています。

気象観測ソリューションとは、単に気象測器を販売することではありません。お客様が、気象データをもとにどのような「安心・安全」をめざしていらっしゃるのか。私たちはお客様と同じ目線で、お客様の立場に立って課題をとらえ、ともにソリューションを作り上げていきます。お客様の目的実現をサポートするために…その想いから、ANEOSでは製品の開発、製造、システム設計、施工、保守までをワンストップでご提供いたします。

ANEOSは、世界に誇る高度な自社開発力で、高精度な気象観測機器を世に送り出しています。それら製品は、品質の維持および向上をめざして自社製造を行っています。そして、開発・製造

を通じて製品のことを知り尽くしているので、ご導入後にも適切な保守が行えます。気象観測は、計測の連続です。お客様のニーズに合わせて成長し続ける、拡張性を視野に入れた観測システムを構築し、保守・運用を続けながら次世代のシステムへつなげていくことも大切です。そうしたデータの引き継ぎを可能にするのは、ネットワークやクラウドなどのICT技術を取り入れた先進的なシステム設計です。お客様が抱える課題に対し、ANEOSが豊富な実績を通じて培ってきたノウハウを活用し、ベストソリューションを提案いたします。

世界最高水準の品質×先進技術によるソリューション提案力を強みに、ANEOSは、お客様の「気象観測ソリューション・パートナー」でありたいと考えています。

気象や水象など自然環境の高品質な観測ソリューションを、ワンストップでお届けします。

先進的な技術による提案力

観測したデータを、IoTやクラウド等のICT技術で処理し迅速に伝達する。
常に時代の先進技術を取り入れて、気象観測ソリューションのご提案を行っています。



気象観測は、あらゆる分野で正確さと迅速さが求められます。集中豪雨や台風の際には、多くの人々の生活や生命が一瞬にして危機にさらされる場合があります。刻一刻と変化する気象現象を一秒でも早く、正確に、確実に判断を下す現場へ届ける。そのため日々、最新の技術を積極的に取り入れ、スピーディかつ信頼性の高い気象観測システムの構築を模索し続けています。

ANEOSでは、業界に先駆けて気象観測ソリューションのICT化を推進してきました。日進月歩の先進技術に対応、社外の専門スタッフを含めた勉強会を定期的に実施し、お客様のニーズにお応えする提案力を高めています。

自社の検査設備が充実

品質を支える充実の試験・検査設備を保有し、
気象庁「認定測定者」として検定制度にも貢献しています。



ANEOSでは、国内気象器メーカーの中で最大規模の風洞施設(最大風速40m/s)の他、気象庁保有の器差測定設備と同等精度の設備を有しております、あらゆる試験を自社で行える体制が整っています。これにより風車型風速計、風杯型風速計、転倒ます型雨量計、電気式温度計、電気式湿度計、電気式気圧計、積雪計の7区分については、「認定測定者」として、気象測器の検定のための器差測定が行えるようになっています。ANEOSが発行する測定結果報告書を添えて申請することで気象測器の検定を取得できます。こうした社内検査設備の充実は、高品質な製品を確実にお客様へご提供したいという、私たちの思いのあらわれです。

伝統の高い自社開発力

ANEOSは、1886年の創業以来、気象観測機器の製造分野でパイオニアとして道を切り開いてきた、小笠原計器製作所の高い技術力を継承しています。

風向風速計、雨量計を中心に、国内はもとより、世界に先駆けた製品の開発実績があります。世界最高レベルの品質を誇る、高い製品開発力が私たちの強みです。130年にわたる開発の歴史から、日本の気象を熟知しており、日本の風土に合わせた製品開発に自信があります。主要製品は、開発から生産までを自社で一貫して行います。熟練の技術者によって、精度の高い製品をひとつずつ丁寧に生産し、品質とスピードを兼ね備えた安定供給を達成しています。フレキシブルに製造ラインを稼動させることで、ロットの少ない機器も製造を維持し、国内では唯一ANEOSだけが製造している観測機器も多数あります。



全国カバーの保守対応

気象観測機器の設置工事だけではなく、
保守点検や修理対応専門の技術者が責任を持って実施。

気象観測システムは、設置して終わりではありません。継続的な観測を可能にするためには、メンテナンスが必須です。ANEOSでは、常にお客様へ最良のサービスをご提供するため、4か所の直営サービス拠点(仙台、東京、大阪、福岡)に加え、サービス協力会社によって、北海道から南は沖縄まで、日本全国をカバーするサービスネットワークを展開しています。全国代理店会議や意見交換会、サービス講習会を定期で行い、お客様の声や価値観を共有し、一体となって事業に取り組んでいます。ご導入後の保守・運用も安心してお任せください。





航空気象



ANEOSの航空気象向け風向風速計や気象観測機器・システムは、国内各地の飛行場やヘリポートだけでなく、海外の空港でも採用されています。

航空機の運航の安全性や快適性、経済性に大きくかかわる気象現象。特に航空機の離着陸に関しては、滑走路周辺の気象観測がきわめて重要となります。近年の航空機の大型高速化や国際線の長距離化に伴ってその安全性確保の重要性が増しています。

ANEOSでは、航空気象観測の提案から設計、製造、現地設置調整および納入後の保守管理までワンストップで対応し、ヘリポートから国内外の飛行場、国際空港へ数々の観測設備を納めています。



東京国際空港(羽田空港)

航空気象観測システムのICT化



航空気象観測システムは、航空機の離着陸に重要な風向風速の観測だけなく、雲の高さや滑走路上の視程(RVR)、気温、湿度、雨量、気圧などの観測を行い、関連するシステムや関係機関へ気象データの通報を行います。

最新の航空気象観測では、ICT(Information Communication & Technology)技術の進歩により、ペーパーレス化、ネットワーク化が進み、ネットワーク上のサーバで処理し、表示、管理、保存および関係機関への配信を行うようになりました。ANEOSでは、これからも最新の技術を取り入れた航空気象観測システムを構築、提案して参ります。



測風柱



風向風速計



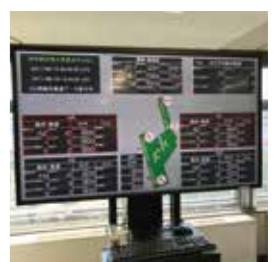
温度計・湿度計・雨量計



雲底高度計(シーローメータ)



滑走路視距離計(RVR)



滑走路気象データ表示装置

SOLUTION 2

道路気象



強風、大雨、降雪、路面凍結など、道路管理に欠かすことのできない道路気象情報を提供します。



最新の観測設備

気象現象は車両の安全通行に大きな影響を与えます。風向きや風の強さ、雨や雪の状況、路面の状態など、ANEOSでは、各種のセンサーと処理装置により、最新の道路気象観測システムを構築し、正確にかつ速やかに道路管理者へ観測データを提供します。

アメダスでも採用されている風向風速計や雨量計、レーザーを使った天気計、非接触で路面の状態を検出する装置など信頼性の高い最新のセンサーを使っています。

SOLUTION 4

消防防災気象



人々の生活を守る全国の消防・防災分野において ANEOSの消防防災気象観測システムが活躍しています。



生命と財産を脅かす自然災害

消防防災活動において気象情報を収集することは必要不可欠となっていますが、最新のシステムは、ICT技術の進歩により、いつでも、どこでも、誰でもがリアルタイムで監視・観測できるシステムとなっています。

ANEOSでは、台風や地震、ゲリラ豪雨など刻々と変化する気象現象をリアルタイムで配信し、自然災害に対して、誰もが迅速かつ確実な行動がとれるようサポートしています。

SOLUTION 3

鉄道気象

沿線の気象状況を正確に捉え、瞬時に伝える、最新の鉄道気象観測設備、システムを提案します。

鉄道気象情報のネットワーク化

強風、大雨、大雪、地震など鉄道の運行管理上、気象現象は重要な情報となります。沿線各所に風速計や雨量計などを設置し、遠隔地の運転司令所において刻々と変化する気象状況を監視します。ANEOSの鉄道向け各種センサーとシステムは全国の鉄道事業者様のみならず海外の鉄道事業者様にもご採用頂き、列車の安全運行の一助として活躍しています。



SOLUTION 5

河川・海岸監視

大雨によるダム・河川の増水や氾濫、低気圧による高波や高潮、地震による津波をリアルタイムで監視します。

最新のICT技術を活用した情報配信

昨今、短時間で急激な気象現象の変化により、河川の増水、土砂崩れ、越波など、大きな被害を及ぼすことがあります。ANEOSでは、テレビやラジオの気象情報だけではカバーしきれない局所的な現象を監視・観測し、地域住民への被害が最小限に抑えられるよう、最新のセンサーとICT技術を駆使し、出来るだけ早く、確実に、必要とされる所へ必要な情報を提供できるシステム構築を心がけています。



SOLUTION

6



ダム気象



ダム水位観測



ダム水温観測



水研 62型フロート式水位計

治水・利水の役割を担う大切なダム。
ANEOSは全国のダム管理施設へ水位計、開度計、
気象観測装置など各種設備を納入しています。

ダムは、洪水調節などの目的をもつ治水ダムや灌漑用水、上下水道水、工事用水の供給、また水力発電等を目的とする利水ダムがあり、両方の目的を持つダムを多目的ダムと言います。

ANEOSでは、ダムの維持管理において重要なダムの水位計やダムゲート開度計、漏水量計など、また降水量や蒸発量を測るための気象観測装置を開発、製造し、全国各地のダムへ設置しています。



光伝送装置

RS/AD コンバータ



SOLUTION

7



大気監視

環境省様をはじめ都道府県、市町村の環境担当様、
また原子力施設及びその周辺では、常に大気環境を監視し、
人々のくらしの安全を見守っています。

微小粒子状物質や放射線量の監視

大気中に放出された工場や自動車、船舶、航空機などからの微小粒子物質（ばい煙や粉じんなど）また放射線物質など人体に有害な汚染物質の移動や拡散、希釈は、地形や気象条件に大きな影響を受けます。ANEOSでは気象庁正式測器に準拠した信頼性の高い各種のセンサーを用い、高精度の観測が可能な大気監視用気象観測システムや酸性雨分析装置などを全国各地へ納めています。



放射線監視用気象観測装置 放射線モニタリングポスト 酸性雨自動分析装置



自動雨水採水器 酸性雨自動分析装置



SOLUTION

8



舶用風向風速計・ワイパー



船用ワイパー



船用風向風速計



船用風向風速表示器



海上という厳しい環境下で使われる船用風向風速計や船用ワイパー、旋回窓。ANEOSでは、耐久性、剛性、信頼性を最重要事項として長年に渡って改良を積み重ね、防衛省様、海上保安庁様をはじめ、小型漁船から大型タンカー、豪華客船まで、国内のみならず、世界中の船主様、造船所様の信頼を得てご採用頂いています。

世界各地でANEOSの気象・水象観測機器、システムが活躍しています。

国内だけではなく、世界の船舶や空港、鉄道、道路、ダムなどへODA(日本国政府開発援助)予算などによって、気象・水象観測設備やシステムを納入しています。また現地での設置指導や機器試験調整、現地運用訓練など技術者の海外派遣も行っています。ANEOS製品やシステムは耐久性や信頼性において高い評価を頂いており、今後もより多くの国々で採用されるよう高品質な製品作りを続けて参ります。



モロッコ王国

世界遺産に登録されているモロッコ王国第2の都市マラケシュ近傍に太陽電池による水位・雨量観測装置11式を納入。



カンボジア王国

プノンペン国際空港へ無線LANを使った滑走路視程計(RVR)、雲高計(シーロメータ)、雨量計を設置納入。



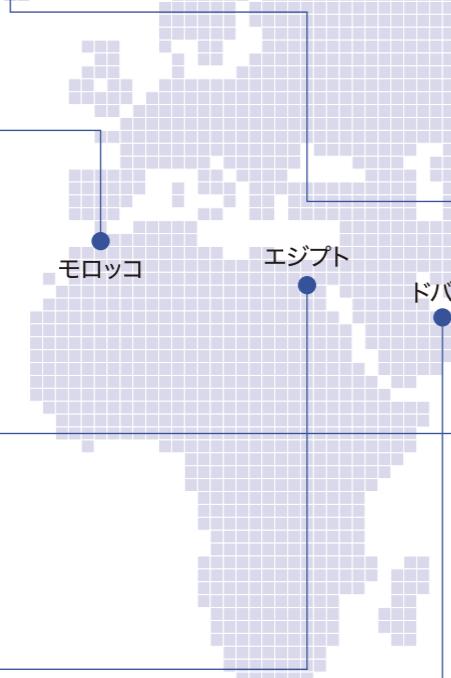
中華人民共和国

東アジア酸性雨ネットワークとして中国をはじめ、アジア13か国に自動雨水採取器を納入。



スリランカ民主社会主义共和国

太陽光発電設備向けに総合気象観測システムを設置納入。



エジプト・アラブ共和国

太陽光発電設備設置のための調査用としての気象観測装置を設置納入。



アラブ首長国連邦ドバイ

中東初のモノレール、ジュメイラモノレールに風向風速計と地震計を納入。



ミャンマー連邦共和国

環境調査用として電池駆動式の移動気象観測装置を納入。



クリスマス島

宇宙開発事業団(現JAXA)より宇宙輸送システム開発の一環としてクリスマス島に太陽電池式気象観測システム3式を設置納入。



モンゴル国

-50°Cにもなるモンゴル国内の14か所に気象観測装置を設置納入。



大韓民国

韓国気象庁へ感雨雪器100台ほか湿度計、レーザ積雪計を納入。また道路気象観測設備をソウル市やハイウェー公社へ納入。



台湾

台湾新幹線の沿線監視用として、風向風速計、水位計、雨量計を納入。また台湾鉄道(在来線)へも強風監視用として沿線の30か所以上に警報付風速計を納入。



アメリカ合衆国

アメリカ南西部のモハベ砂漠に設置した600基以上の風力発電設備に風向風速計を納入。



エルサルバドル共和国

衛星通信可能な太陽電池式雨量観測装置を12か所に設置納入。



フィリピン共和国

フィリピン中部に位置するILOILO(イロイロ)国際空港に航空用気象観測システムを設置納入。



キリバス共和国クリスマス島

宇宙開発事業団(現JAXA)より宇宙輸送システム開発の一環としてクリスマス島に太陽電池式気象観測システム3式を設置納入。



インドネシア共和国

マラッカ海峡の船舶航行安全システムとしてスマトラ島に気象観測システム3式を納入。



サモア独立国

南大西洋に位置するサモア独立国ウポル島に長距離無線LANを使った気象観測システムを設置納入。

地球規模で自然環境保全への注目が高まる中、
災害予知の基本となる『自然を測り』、
人々の『暮らしを守り』、社会の安全に貢献していくことを使命とする。
お客様や社会に対する責任を果たし歓迎されることを誇りと思い、
そしてそこで働く従業員とその家族を
幸せにする会社になることを目指します。

ANEOS沿革

日本エレクトリック・インスルメント(NEI)の歴史

- 1965 東京都目黒区自由が丘にて野澤侑司が(株)日本エレクトリック・インスルメントを創業
- 1966 我が国で初めてFRP材成型の風向風速計を開発、販売
- 1968 3次元ベクトルアネモメーターの開発、販売
- 1974 横浜市戸塚区平戸に横浜工場竣工、生産開始
- 1982 東京都渋谷区円山町に東京営業所開設
- 1986 世界初、2線接続式の風向風速計を開発、販売
- 1987 船舶用「真」風向風速計を開発、販売



小笠原計器製作所(OK)の歴史

1886 東京市京橋区新富町に小笠原製作所を創業、航空計器や時計の修理を業とする

1893 気象器械、圧力計、測量器械の製造を開始

1925 社名を合資会社小笠原計器製作所と変更

1936 目黒区唐が崎618番地(現在地)に工場移転、軍需工場の指定を受ける

1954 株式会社小笠原計器製作所に社名変更

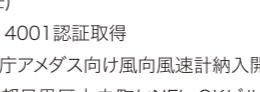
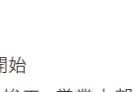
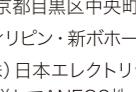
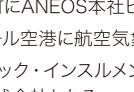
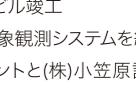
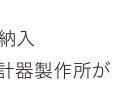
1966 厚生省公害課様へ東京、大阪、尼崎向けとし風向風速温度湿度計の気象観測装置を納入、この年より本格的な公害の観測が始まる

1968 無電源で降雨1mmに対し、100mlごとに分取する、雨水採取器R-100型を開発、酸性雨観測の草分けとなる

会社概要

会社名	ANEOS株式会社
設立	1965年9月
資本金	1,000万円
取引銀行	三菱UFJ銀行自由が丘駅前支店
従業員数	180名
住所・営業所	本社／工場 〒152-0001東京都目黒区中央町1-5-12 TEL03(5768)8251(代) FAX03(5768)8261 営業所 渋谷営業所、東北営業所、関西営業所、九州営業所 事業所 横浜事業所、北茨城事業所、春日部事業所
主要取引先	気象庁、防衛省、国土交通省、農林水産省など官公庁、各種研究機関、消防本部、学校、環境・防災行政機関など各地方自治体、国公立・私立大学および研究機関、NEXCO、水資源機構、電力会社各社、電機・通信機メーカー各社、船舶造船所各社、その他上場企業・優良企業多数
品質管理システム	ISO 9001/2015
環境マネジメントシステム	ISO 14001/2015 自己適合宣言



2000	ISO9001認証取得 (株)小笠原計器製作所と資本業務提携	2013 世界初、自己発電による無線式風速計を開発、販売
2002	代表取締役野澤侑司が(株)小笠原計器製作所の代表取締役に就任 (兼任)	2016 気象庁へ航空気象観測システム(AIMOS)納入開始
2005	ISO14001認証取得 気象庁アメダス向け風向風速計納入開始	2017 気象庁へ可搬型津波観測計を納入
2006	東京都目黒区中央町にNEI・OKビル竣工、営業本部、技術本部を開設	2018 東京都目黒区中央町にANEOS本社ビル竣工 フィリピン・新ボホール空港に航空気象観測システムを納入
2007	台湾新幹線開業に向け風向風速計、雨量計、水位計を納入	2019 (株)日本エレクトリック・インスルメントと(株)小笠原計器製作所が合併してANEOS株式会社となる
2009	目黒事業所に大型風洞を設置	2020 気象庁へ可搬型航空気象観測システムを納入
		
		
		
		
		
		
		
		
		
<img alt="Wind speed and direction sensor" data-bbox="17800 1		

2000 株式会社日本エレクトリック・インスルメント（NEI）と資本・業務提携

2002 YS-300型自動雨水降下じん採取器を開発、環境庁様より国内10カ所に納入
NEI代表取締役野澤侑司が（株）小笠原計器製作所の代表取締役社長に就任

2003 台湾環境省様へ酸性雨自動分析装置を18台納入

2005 気象庁04型アメダスに温度計・雨量計納入開始

2006 創立120周年を迎、本社敷地内に新社屋「NEI・OKグループビル」落成

2007 中国国家環境保護総局様へ中国全土32カ所に雨水採取システムを納入（酸性雨観測目的）

2009 内閣府へ、中国遺棄化学兵器処理に関する周辺環境観測装置を納入

2010 NTTドコモへ環境測定用気象観測装置（湿度計1900台、雨量計1500台）納入

2011 東京スカイツリーに、高度別に風向風速計17台他、温度湿度、感雨、日射等を納入

2012 大阪府環境農林水産部様へPLS圧力式水位計36台を納入、各自治体の放射線モニタリングシステムに気象観測機器を納入

2013 北陸新幹線の消雪・隔雪基地へ気象観測システムを納入

2016 セントルシア国へ雨量観測装置を納入（ODA事業）

2017 東ティモール国へ超音波式潮位計を納入（ODA事業）
デジタル方式のPtアスマンを開発し、気象庁へ納入開始

2018 韓国環境省へ酸性雨自動測定装置3式納入
危機管理型水位計を全国へ納入開始

2019 （株）日本エレクトリック・インスルメントと（株）小笠原計器製作所が合併してANEOS株式会社となる